



～笑顔あふれる 魅力あふれる学校をめざして～

目的：教員が心身ともに健康を維持し、教育の質を高め、児童生徒の資質・能力の向上を図る

教師の姿

子どもと向き合う
時間が増えた！

心も体も
健康！

仕事にやりがい
がある！



連携・
協働

必要とする
支援

地域との姿

目標達成を
めざすこと
で目的を成
し遂げる！

友達と協力するの
は楽しい！

算数や国語の授業
がよくわかる！

学校に行くの
が楽しい！

自分にはいいところ
がある！

英語の勉強が好き！

人が困っていたら
助けたい！

話し合い活動で考えを深
めたり広げたりできる！

子どもの姿



目標：時間外在校等時間を月45時間以内、年360時間以内にするを目標として

1. 時間外在校等時間【月45時間】を超える教職員の割合を0%へ
(参考値R3年度6月：43.1%)
2. 年次有給休暇の年間平均取得日数を16日以上へ(参考値R2年度：14.1日)
3. 高ストレス者(総合リスク100以上の割合)7%未満(参考値R2：9.7%)

最終
目標

1. 時間外在校等時間【月80時間】を超える教職員の割合を0%へ(参考値R3年度6月：6.9%)
2. 時間外在校等時間【月平均値45時間】を超える学校の割合を割合0%へ(参考値R3年度6月：34.1%)
3. 教育課程の見直し等に取り組んでいる学校の割合100%(参考値R3 小97.6%中94.6%)

中間
目標

4つの方針 ～教育課程の見直しにも踏み込んだ新しい働き方改革～

※この「教育課程の見直し」については、児童生徒が学ぶ内容を単に削減する、ということではなく、子どもたちが身に付ける力の育成に必要な教育内容は維持しつつ、短時間で集中・効率的な学びを目指していく趣旨です。むしろ、GiGA一人一台端末等を活用しながら、これからの時代に求められる学びのための授業等の在り方を考える契機と考えます。

1 カリキュラムマネジメントを踏まえた教育課程の見直し		2 事務業務の軽減	3 指導体制の整備	4 時間管理の徹底
① 新	働き方改革を意識した教育課程の見直し・実践及び好事例共有	① 拡 校務支援システムの活用	① 静岡市型35人学級の実施	① 「学校の教育職員の時間外在校等時間の上限等に関する方針」による意識改革
② 拡	働き方改革推進校による実践・発表	② スクール・サポート・スタッフ(教員業務支援員)の配置	② 拡 持続可能な部活動システムの構築	② 拡 校務PCログイン時間による勤怠管理の推進
③	静岡型小中一貫教育の教育課程の編成(教科の系統性、行事の見直し)	③ 新 欠席連絡のデジタル化のための整備	③ 拡 家庭や地域との連携・協働の推進(学校応援団・放課後子ども教室等)	③ ③ 教職員のメンタルヘルス対策推進
④ 新	静岡型ICT教育の推進(学習用端末を活用した授業づくり)	④ 新 教材の保存・共有による授業準備の削減	④ 特別支援学級支援の充実	④ ④ 時間外の電話対応の時刻の設定・登校時刻等の検討
⑤ 拡	小学校高学年における教科担任制(英語)	⑤ 教員、事務職員の標準的な業務の明確化	⑤ 非常勤講師・支援員等の人的配置	⑤ ⑤ 日直を置かなくてもよい期間の設定・年次有給休暇取得の促進
⑥ 拡	コミュニティ・スクール導入の推進	⑥ 拡 共同学校事務室の設置	⑥ 拡 キャリア・プランシートを生かした教師としてのキャリア設計	⑥ ⑥ 1年単位の变形労働時間制の活用
⑦ 新	「リフレッシュ・デイ」と教育の質の向上		⑦ 人事評価制度に働き方の視点を入れた生かすシステムの構築	
⑧	授業時数の整理			
⑨	校内・校外研修の見直し			

重点

◆H30～R3プランでの主な取組

- 校務支援システムの導入
- スクール・サポート・スタッフの全校配置
- 長期休業期間における「日直を置かなくてよい日」設定
- 勤務時間外電話対応時間の設定
- 推進校による実践研究
- 学校による好事例の紹介

★長時間労働対象者

(勤務時間外が100時間1か月、80時間2か月、45時間3か月連続した者)の割合が着実に減少しています。

H29 26.5%

→H30 24.8%

→R1 17.7%

→ R2 9.0%